

## ★ 令和4年度磐田市議会 新体制でスタートしました（あしかわ和美は以下の委員に就任しました）

- ・ **議会運営委員会 委員長** 議会運営が円滑に行われるよう議事日程など運営について協議する機関です。
- ・ **建設産業委員会 委員** 経済産業部、建設部、環境水道部、農業委員会の所管に属する事項の審議を行います。
- ・ **予算決算委員会 委員** 一般会計、特別会計及び企業会計の予算及び決算に関する事項の審議を行います。
- ・ **太田川原野谷川治水水防組合議会議員** 太田川流域4市町で構成する治水及び水防のため設立された組合です。
- ・ **磐田市立学校給食運営委員会委員 委員長** 磐田市立小学校・中学校の給食について等、審議を行います。

### 令和4年2月定例会の内容【一般質問】 ※抜粋してお知らせします

#### ★ 子育て力

##### Q 新型コロナウイルス感染症による影響の中で、今後の子育て施策をどう充実させていくか伺います。

A 今後の子育て施策については一人一人の成長や発達に寄り添い、見守っていく寄り添い型の相談支援が求められていますので、令和4年度からこども未来課の組織を再編し、母子保健や発達に関する様々な相談に対し、きめ細やかに対応できる磐田市版のネウボラ（※1）としての体制を構築していきたいと考えております。また、コロナ禍で進めてきたオンラインの活用は、市民同士がつながるために大変有効なツールであることが分かりました。コロナ禍で得た経験を生かし、平常時にも仲間づくりの促進に活用していきたいと考えております。

##### Q 市長はイクボス宣言をしてから働き方をどのように変えてこられたか伺います。

A 宣言後は職員が生き生きと仕事も家庭生活も送れること、学びの時間を大切にすることを定期的にメッセージを発信し私自身も家庭において率先して家事や育児をすることを意識し、宣言したことを実践するよう努めております。

##### Q 庁舎内の男性トイレにおむつ交換台を拡充する考えを伺います。

A 現在、おむつ交換台は本庁舎のバリアフリートイレ、1階男性トイレ及び授乳室に、支所及びiプラザにはバリアフリートイレ、授乳室等に設置をしております。トイレのスペースにも限りがあるため、今のところ男性トイレに拡充する計画はありませんが、利用状況等により、必要な箇所があれば検討をしていきたいと思っております。

##### Q 令和3年6月に育児・介護休業法が改正され段階的に施行することになります。磐田市として、市内企業の育児休業や介護休業制度の実態把握をしているか、また今後市の施策としてどのような事を行うのか伺います。

A 市が令和2年度に実施した企業実態調査では、育児介護休業制度の取得を推進する事業所の割合は約38%で、さらなる取得向上には労働環境の改善、多様な働き方の推進やワークライフバランスなど様々な取組が必要と認識をしております。

##### Q 男性市職員の育児休業・介護休業に関する制度の周知や、制度を活用しようとする職員への支援を伺います。

A 育児制度・介護制度ハンドブックを作成し、全庁的に周知をしています。また、対象職員には積極的に休業制度を活用してもらうよう人事評価面接等の機会に制度の周知を図っております。現状では男性職員においても長期休業制度の活用については少数にとどまっているため、今後も職場全体で支援する雰囲気の醸成を図るとともに、休暇する職員を見越した職員体制について検討をしております。

#### ★ 地域力

##### Q 磐田市のスポーツ産業に対する基本的な考えを伺います。

A 本市の魅力である様々なスポーツ資源を活用し、交流人口の拡大のほか観光や商業の振興にもつなげていきたいと考えており、策定中の磐田市経済産業振興プランにおいても施策として盛り込んでいく予定です。また、行政だけでなく市民、団体、ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのプロスポーツチームや大学、事業者等との連携が重要であることから様々な場で多様な視点から可能性を検討し取り組んでいきたいと考えております。

##### Q 学校や企業及びジュビロ磐田とのスポーツ産業に関する連携の可能性を伺います。

A 現在市内の2大学や事業者、ジュビロ磐田等と連携し、食、スポーツ、健康で地域貢献を実現するため、栄養バランスの取れた食事と運動により健康な生活を目指すジュビロ飯の普及に取り組んでおります。今後も新たな商品開発などスポーツや健康等を切り口として、産官学が連携した取組を進め、地域経済の活性化を目指していきたいと考えております。

##### Q 市民がスポーツチームや選手を応援する仕組み作りが必要だと考えます。磐田市の考えを伺います。

A 市民が本市を活動拠点とするプロスポーツチーム等に関わることは、市民である喜びや誇り、シビックプライドにつながるものと考えております。今年はジュビロ磐田のJ1リーグ昇格や静岡ブルーレヴズの新リーグ参加の年であり、まち全体で応援する仕掛けについて関係者や市民とともに考えていく場を設けることから始めたいと思っております。

#### ★ 環境力

##### Q 磐田市の一般廃棄物処理基本計画におけるプラスチックごみ抑制に向けた取組状況を伺います。

A 新たな展開として、市内事業者及び磐田消費者協会と食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組に関する協定を締結し、ゼロカーボンに向けた取組の一環として、値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーンや100%紙製クリアファイルによる啓発活動等に取り組んでいるところでございます。

##### Q 公共施設に設置している自動販売機の資源ごみを正しく分別出来る回収ボックス設置の検討について、また今後市内全体に普及させる考えを伺います。

A 現在、飲料メーカー各社でつくる全国清涼飲料水連合会が実証実験を進めている状況で、公共施設に設置している回収ボックスについても速やかに切り替えができるよう協力していきたいと考えております。全体への普及については先行事例への取組状況を情報収集し、食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組に関する協定を締結している市内事業者へ情報提供するとともに市ホームページ等で周知をしていきたいと考えております。

※1 ネウボラとは  
フィンランド発の子育て支援制度・施設のこと。  
一家族ごとに一人の保健師が継続して担当し、妊娠から出産・子育てに関するあらゆる相談にワンストップで対応するため、利用者は早期に適切で手厚いサポートを無料で受けられます。  
適切なサポートを受けることで少子化の予防にもつながると考えられ、また乳幼児で安定的な発達ができた子どもは、健康を維持できる可能性が高いことがわかっており、ネウボラによって乳幼児やその家族に対し健全な指導を行うことは、医療費のコスト削減にもつながるとされています。



### 令和4年6月定例会の内容【一般質問】 ※抜粋してお知らせします

#### ★ 一人ひとりに寄り添った『心のケア』について

##### Q 「グリーンケア」の提供、専門機関との連携を伺います。

A 現状では県や医療機関が主体となり取り組んでおりますが、メンタルの重症化を防いでいくには早い段階で心に寄り添う支援が重要と考えております。まずはグリーンケアを必要とする方が相談できる日を設ける取り組みから始めていきます。医療機関等の中には専門的なケアを行うグリーンケア認定士がいる機関もあるため、現状を把握し県と連携し必要な支援策についても検討してまいります。

#### ★ 子どもの居場所について

##### Q 様々な困難に直面している小中学生の生活環境の把握と対応を伺います。

A 小中学校では担任は子どもと対面し、目を見て対話することで子どもの理解に努めています。またスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育支援員、心の教室相談員などの意見も踏まえながら多面的に子どもの生活環境や様々な困難を把握してるところであります。把握した実態に応じて、どのような支援が必要か協議し、外部機関と連携しながら子どもに寄り添い、子どもが伸びていく方向を支援しているところであります。

##### Q 日本財団「子ども第三の居場所プロジェクト」活用に向けての調査、検討を伺います。

A 子どもたちが家庭や学校以外の場で安心して過ごせる場をつくることは重要と認識をしておます。この事業の活用のほか子ども食堂への支援や学習チャレンジ支援など様々な可能性を模索しながら、調査検討していきたいと考えております。

#### ★ みんなに届く情報発信

##### Q デジタルサポーター人材育成支援制度等の確立について見解を伺います。

A デジタルサポーターはスマートフォンの利活用など地域の身近な相談役として有効なものと考えております。本年度から国ではデジタル推進委員制度、県ではデジタルサポーター育成制度と二つの制度を開始することから、本市ではこの制度を活用し多くのサポーターを育成するため関係団体などへ周知をしております。

##### Q SNSを活用した外国人への情報発信の課題と対応策を伺います。

A SNSを利用した外国人への情報発信はコロナ禍においても大変効果的で重要だったと受け止めております。課題は発信している言語数が少ないことと考えております。今後の対応策ですが、対応言語にベトナム語ややさしい日本語を追加予定であることに合わせて、いわたホッとラインなどの外国語版配信も充実をさせていく予定でございます。

##### Q 今後、市民サービスの向上のためのLINEリッチメニュー導入について市の見解を伺います。

A 今後のリッチメニュー導入については、市公式LINEは現在市民の人口の半数を超える方に友だち登録を頂いております。使い慣れている方も多いことから、利用可能なサービスは随時導入を検討していく予定でございます。